

会 議 等 結 果 報 告 書

名 称	第5回自治基本条例づくり検討会議																		
日 時	平成19年2月2日(金) 19時00分～21時40分																		
場 所	役場審議室																		
出席者	検討会議委員 出席5名																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏 名</th> <th>出欠</th> <th>氏 名</th> <th>出欠</th> <th>氏 名</th> <th>出欠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡 本 康 裕</td> <td></td> <td>大 内 和 行</td> <td></td> <td>板 垣 貴 子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>渡 辺 雄 介</td> <td>欠</td> <td>瀬 川 英 樹</td> <td></td> <td>大 石 理 香 子</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	氏 名	出欠	氏 名	出欠	氏 名	出欠	岡 本 康 裕		大 内 和 行		板 垣 貴 子		渡 辺 雄 介	欠	瀬 川 英 樹		大 石 理 香 子	
	氏 名	出欠	氏 名	出欠	氏 名	出欠													
	岡 本 康 裕		大 内 和 行		板 垣 貴 子														
渡 辺 雄 介	欠	瀬 川 英 樹		大 石 理 香 子															
事務局：坂弥行政改革推進班主幹、谷口主査																			
内 容	<p>岡本代表： 前回説明を受けた富良野市ルール条例の話も参考としながら、本日のテーマである「まちづくりの現状を見つめ直す」ため、率直な意見を出していただき、話し合いを進めていきたいのでよろしく願います。</p> <p>事務局： 当日配布した資料について説明。</p> <p>岡本代表： 配布された資料も参考に、皆さんから意見を出していただきたい。</p> <p>行政全般にいえることだが、情報の出し方は下手だと感じる。資料にある広報の予算の見出しは67億円でないかと思う(これまで町の予算は60億円以内を目指すと聞いてきたため)。一般会計と特別会計が合わせて116億円と示されているが、町の会計予算は分かりづらいため混乱すると思う。</p> <p>見せ方の工夫や、情報が足りないと思う。町民から見て、行政の情報は分かりづらいため、聞かないし関心が高まらないのでないか。</p> <p>行政運営に問題点あると思うが、(行革など)上富良野は結構やっていると思う。でも町民は知らないし、知られていないのでないか。</p> <p>企業的な視点が必要で、人(町民)に見てもらおうという広告的な視点や、人に来てもらおうという視点が足りないのではないか。</p> <p>人の興味を引き、人に来ってもらうためには、ポイントを絞って情報提供することが大切。人を引っ張り込むことを考えることが必要。</p> <p>岡本代表： 予算を中心に情報提供のあり方について意見が出された。町は聖域なき予算というがメリハリが必要でないか、福祉や教育は重点と思う。</p> <p>上富良野は自衛官の多い町で転勤者も多い。教育面の不安から、出身のまちに帰るとい話を聞く。この町に住み続けたくても、教育や医療の面の不安から転居する(残れない)人もいるのでないか。観光は通過点と言われているが、町全体が通過点に見られてしまうのでないか。</p> <p>教育面で学力への不安の声が聞かれる。先生方は、若い時は地方の学校を回ると聞くが、上富良野も若い先生が多い。学校全体の教師層には経験者(学力指導</p>																		

力)も必要でないか。上富良野は、都市に異動する以前の経験を積む場所になっているのでないか。

先生の配置については、教育委員会と学校の関係であり、保護者が意見することは難しいと思う。

P T Aも学校(教師)を育てる役割があると言われていたが、なかなか難しいと思う。(学力を考えた)学校を選択する上で、上富良野も通過点になってしまっているのかもしれない。(旭川や札幌などへの転勤希望)

転勤も無く、他のまちのことを知らない上富良野育ちの人にとっては、現状に納得してしまっているかもしれない。

自衛官は転勤があり、上富良野と他の町とを比較できる(良い点や悪い点など)。他の町の良い点を取り入れることも必要。

何事もダメという諦めで終わるのでなく、意見を出していくことが大切。

この町に住み続けられるかどうかを考えた場合に、老後のこと、特に医療は重要で心配される。老後のことは、この町に住み続けるかどうかの選択肢になるのではないか。富良野地域の医療は、富良野協会病院が核となっているが、全ての面において協会病院に行くことが良いのかどうか。上富良野に全ての診療科が無くても、自分の健康状態を判断してもらえるホームドクターがいて、医療の選択を指示してもらえることが良い。

医師不足は都市の医療機関でも聞かれている。20年前は医師余りの時代で制限があったようだが、何の対策もとらずにきて、今の状況を迎えているとの話を聞く。また、看護師不足も聞かれる。

旭川空港では、美瑛や富良野のポスターが目立ち、この地域がイメージされている。上富良野は観光PRが不足しているし、下手だと思う。日の出公園は駐車場が広いのに、人はいない。人が来るように皆でアイデア出し合うことが必要。

観光客は、美瑛・富良野・トマムのイメージで、上富良野は富良野市の一部とされている。上富良野単体での観光は難しく、富良野地域全体を面と捉え、人を呼び込む工夫を考えるべき。住んでいる町が知られていないことは寂しいことだが現実。

「住んでいる町は」と聞かれて、富良野と言ってしまふ。富良野のイメージがあって、説明しやすいこともあるが、相手も理解してくれる。

富良野地域のイメージを上富良野にも活かすべき。

人を呼び込むことも手法だが、観光客の多い観光地を活用することも考えられ、集客力のある場所(地域)に行つて物を売ることも手法。

住んでいる町として上富良野町を意識するが、他の町を見たとき、町名も分からず都市のまちとして見ているところもある。そのような地域は全て同じまちに見えるから、「合併すれば」と見てしまふ。

滞在するためには上富良野は宿泊施設が弱いと思う。

地元の隠れた穴場情報を旅行雑誌で知ることがあり、以外と地元の人が穴場を知らないと思う。

観光客の目線で言えば、「レストラン思い出のふらの」が、名前からも富良野と美瑛の境界と思われている。それ位、この地域は一体的に見られている。観光はもっと広域でがんばるべきだと思う。富良野市は北の国のテレビ放映もあって、うまくいったが、最近の観光客の減少傾向に打開策は見られず、もっと広域で打開策を考えるべきだと思う。

深山峠の大型レストランなどの立地に対して批判を聞く。行政が策も無しに、民間に任せた結果であり、せっかくの景観が台無しになっている。

道内でも修学旅行が盛んだが、目を引くような地域に関する情報の出し方に工夫が必要と思う。旅行雑誌の特集で、地元の情報が掲載されれば「行ってみたい」と思わされてしまう。

見てみたい、行ってみたいと思わせることが大切で、広告はお金をかけることも必要。町広報の広告掲載はどうなっているのか。

現在の広報誌（色使い・スペースなど）で広告を出す気になるかどうか。広報に目がとまっているのかどうか。

住民の目を振り向かせるには、大胆な提案が必要でないか。ゴミの完全有料化など、危機感を抱く内容もある。

広報に広告スペースがあることは以外と知られていないのではないか。

広告掲載を増やす努力として、行政側の営業が足りないと思う。広告を載せたいと思わせる誌面の工夫も必要。

色々な面で行政側の営業は足りないと思う。

封筒への広告掲載も考えられるのではないか。

掲載相手を待っているのではなく、掲載してもらうよう営業努力が必要。行政職員も営業を通じて民間の視点が分かるのではないか。

フリーペーパーの取り組みをしてはどうか。

広報を委託することも手法と思う。（逆に高上がりになっては意味ないが）

言いたいことを役場のどこに言えばよいのか良く分からない。行政の窓口が分かりづらい。

J A（農協）は職員が少なくなり、事務所で相談することが難しくなった。上富良野支所では本所に聞かなければ分からないことも多く、富良野本所は遠いし入りづらい。職員も頻繁に異動するので意思疎通は難しい。J Aの姿は、市町村合併後のイメージ。富良野地域の中で上富良野は端にあり、当初の約束も数年立てば反故にされ、5～6年後は富良野が中心となってしまう。

J Aも色々と改革しているが、それをどう見るか。職員の士気低下が懸念されないか。

「行政の役割は何か」を良く考えることが必要。改革としてやっていることが全て良いと言えるかどうか。無理やムダが無いのか、効率的な運営がされているか、広告などの収入増加策はないかなどの視点に立つことが見直したと思う。大胆な発想として、議会は本当に必要なのか、物事を決める仕組みとして効率的かなど。

バス運行（1日4回）は、どうしてこのようになったのか、町民に伝わってい

ない。実際、通学以外に人は乗っていないと思う。黒字化への工夫や、乗客を増やす工夫の議論はされているのか。そのための取り組みや、運行の検証はされているのか。バス運行の一つを取ってみても、検討過程が知らされていない。

バス運行の基本的な考え方が伝わってなく、良く分からない。

効率的な運行に向けて、予約制の導入や、代替策などの議論がされているのか。

事務局： 町が行っている事業を止めるにはエネルギーが必要で、利用している地域の要望や意見に対して、地域の理解を得ることが大切。地域や利用者の声を聞きながら互いに創意工夫していくことが求められる。その意味でも、地域から意見を出していただき、論議していくことが必要。町の事業をどうしていくのかは、結局は税の使い道の議論になる。

議論する場の仕組みが必要。

出前講座は、相手からの申込みを待っていてはダメだと思う。行政の情報を伝える機会として、行政から押しかけセールスをしなければ申込みは無いと思う。

職員も営業が必要と思う。

民間では、人を引き付けるために、しつこい位に広告を出している。行政もそれくらい努力が必要と思う。

行政は情報を町民に知らせたいと思っているし、町民は意見を聞いてほしいと思っている。相互のコミュニケーションの場が必要でないか。

コミュニケーションの場として、役場対町民の大きな関係でなく、1対1など、話しやすい場と関係づくりが必要。

総合窓口が4月から設置されるが、職員皆さんがそれに対応する意識を持つよう、行政内部の対応が重要と思う。

富良野市のルール条例では、職員の事務手続に対する負担感が増したと言われていた。条例として制度化し、職員が本当に対応していけるのかどうか。行政内部でしっかりやっていくという姿勢が必要でないか。

事務局： 情報提供は、その充実に努めているが、なかなか難しい課題。行政から出す情報を基に、行政と町民が厳しい財政状況に対して危機感を共有できるかどうかがある。行政の内部努力で、職員の退職後補充せず、職員数が減少する中でも様々な業務に対応してきている。住民のニーズが増え、議会からも行政対応に様々な意見をいただく。これらに対応して進める上でも、仕組みづくりが必要と思う。

富良野市の説明で、ルール条例があることで（市民の意見が吸い上げられて）議会議員が助かる旨の話があった。議員のためにルール条例をつくり、情報提供が進められることになるのはどうかと思う。

議会議員から私たち町民へは、直接情報が伝わってこない。議会議員の情報提供に関するルールづくりも必要でないか。

議会を傍聴することも私たちの役目かもしれないが、議会の開会日程では仕事もあって傍聴も難しい。議会の議論に興味はあるが、傍聴しやすい工夫が必要。土日や夜間の開会、インターネットを使った公開などが考えられる。

最終的に町の物事を決めるのは議会であり、議員からも色々なことについて報告が必要だと思う。住民会の会合などで、若干の議員報告があるようだが、ほとんど分からないと思う。

ルール条例が無くて、議会議員の基本的な活動ルールが必要でないか。

議会に対してインターネットによる公開を要望したことがあるが、「出来ない」と説明された。行政はやらない方向で組み立てする傾向を感じる。検討する気概は必要と思う。議会も広く公開することで、質疑答弁のやり取りが活性化され、議員も変わると思う。

行政が住民に問い掛けていく努力や、民間的な営業が望まれる。

ふれあいサロンの講師について、一部有料になったと聞いているが、そこまで負担を求めることが必要なかどうか。

上富良野の広聴活動はどのようになっているのか。実際に開催があるのかわか。

町民ポストの投稿では、氏名を記入した場合、どこまで公開されるのか。

事務局： 出前講座は、健康や福祉に関するテーマが人気で、住民会等で利用されている。職員が講師となり基本的に無料で行っているが、全ての講座に申込みがあるわけではないが、行政情報の提供機会として利用促進を進めている。

ふれあいサロンについては、今年4月から従来の補助金形式から、住民会への統合交付金になり、実施についても各住民会の自主的な開催が進められることになる。講師については、町職員や保健指導に必要な講師を活用する場合は、負担が無かったと思うが、主催者側で専門家などを活用する場合は、これまでも負担があったと思う。今後は、住民会などによる自主的な開催へ移行し、必要な講師については一部負担が考えられる。

広聴活動には資料のとおり、いくつかのメニューがある。開催の状況は、決して多いとはいえないが、町長と語るうでは各団体と意見を交わしている。また、町民ポストは所管課（総務課）が管理し、寄せられた意見に対しては、町の考え方を広報誌に掲載している。広報誌には、性別と年代を掲載している。

岡本代表： 色々と意見を出されたが、今後の論議の進め方について、意見をいただきたい。基本条例やルール条例を運用した場合のシミュレーションすることも考えられる。

これまでの論議からは、情報の出し方が問題提起されている。情報のあり方と、その上での参加のルールが考えられるのでないか。

事務局： 検討会議は3月答申を目標にスタートしたが、会議の議論を尊重していくことから、拙速な答申づくりとならないよう、時間的制約を考え直し、4月以降も検討会議で議論をお願いしたいと考えている。

どのような基本条例とするか、その結論は検討会議に授けられており、責任を持って対応していかなければならない。

岡本代表： 検討会議として責任を感じつつ、上富良野にあった自治の仕組みを考

えていかなければならない。

富良野市も条例化には2年以上の議論を費やしており、議論に時間は必要と思う。

岡本代表：条例はつくるだけではなく、行政や町民の意識を変えていくためにも時間が必要と思う。

行政で作成した基本条例のたたき台と、富良野市のルール条例を比較検討していくことで、上富良野にあった条例に整理していくことも手法でないか。

岡本代表： 2月7日富良野市職員セミナーが開催される。富良野市のルール条例について、大学教授の話も参考となると思われるので、希望者は参加することとしたい。その講義も参考としながら引き続き、まちづくりの現状と課題について話し合いを行い、今後の進め方を論議していきたい。

全体： 了承

2 その他

岡本代表： 次回会議は、2月16日（金） 19時からとする。

《終了》 21時40分